

損害賠償請求事件について

事案の概要

上告人らは、Aが所有し運転する普通乗用自動車（以下「本件自動車」という。）に追突されて傷害を負ったとして、本件自動車の名義上の所有者兼使用者であり、Aの弟である被上告人に対し、自動車損害賠償保障法3条（*）に基づき、損害賠償を求めている。

（*）自動車損害賠償保障法3条

「自己のために自動車を運行の用に供する者は、その運行によって他人の生命又は身体を害したときは、これによって生じた損害を賠償する責に任ずる。（以下、略）」

原判決及び争点

- ◇ 原判決は、被上告人は、生活保護を受けていたAから依頼され、本件自動車の名義人となることを承諾したというにとどまり、本件自動車の売買には関与しなかったこと、被上告人とAとは、完全に住居、生計が異なっており、疎遠であったこと、Aが本件自動車を実質的に所有し、使用しており、被上告人は、本件自動車の保管場所も知らず、本件自動車の保管や使用について全く関与していなかったこと等に照らすと、被上告人は、「自己のために自動車を運行の用に供する者」に当たらないと判断して、上告人らの請求を棄却した。
- ◇ 最高裁における争点は、被上告人が本件自動車の運行について「自己のために自動車を運行の用に供する者」に当たるか否かである。